

指導者のための情報紙

アポーリ!ともだち仲間たち

彩の国

発行：財団法人 埼玉県体育協会 埼玉県スポーツ少年団 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂3-14-1 埼玉県自治会館3F

URL : <http://www.japan-sports.or.jp/saitamaken>

No.7

埼玉県で37年ぶりの国体が開催されました

2004年 第59回国民体育大会

彩の国まごころ国体 とどけ この夢 この歓声

— 子供たちの夢・感動 —

埼玉県では2回目となる第59回国民体育大会が開催され、子供たちに夢と感動を与えてくれました。

9月11日（土）～14日（火）に開催された夏季大会サッカー競技では、さいたま市と川越市会場でサッカー少年団員がエスコートキッズを務め試合前を盛り上げました。また、越谷市の女子サッカー会場では、アテネ・オリンピックで活躍した選手や各県代表選手に、越谷市内および近隣の少年団員が熱い声援を送りました。



— 子供たちの声・感想 —

“国体に参加して”

「大玉ころがしでは、玉が大きくて前が見えませんでしたが、一生懸命がんばりました」

「炬火リレーに参加しましたが、緊張より煙たくて目が痛かったです。でも良い思い出ができました」

「茨城県の選手団が私の前を行進したとき、コバトン旗を振ってがんばれと声をかけたら、選手団が私の方を見て笑ってくれたことがうれしかった」

「選手と一緒に入場して、テレビで見たワールドカップのようだった。かっこよかった。僕も国体に出られるようにがんばる」

— まごろと夢をつなぐ大会旗・炬火リレー —

炬火とは「たいまつ」の意味がありオリンピック

の“聖火”にあたるもので、県内10カ所で採火され、大会旗とともに県内各市町村をリレーした後、秋季大会の開会式会場の「熊谷スポーツ文化公園陸上競技場」の炬火台に点火され、大会期間中多くの選手たちの活躍を見守りました。



各地のスポーツ少年団員たちは、炬火リレーや各地でのクリーン作戦などへ積極的に参加し、国体の成功に協力しました。

また、熊谷市で行われた開会式では、熊谷市サッカー少年団9チーム、深谷市、妻沼町、美里町サッカー少年団の団員たちが、浦和レッドダイヤモンズ、大宮アルディージャの選手たちとオープニング・プログラムで、タグラグビー、ピッチでマッチ（ゴールポスト各2カ所、ボール10個、60人入り乱れウルトラ争奪戦）を楽しみました。





リーダーたちの話し合いの中から生まれたグループテーマは、「豊かな自然環境の下で異文化を溝喫しよう」だった。キャッチフレーズは、—合い言葉は“Cheer up!” —元気をだして！

とにかく全員が元気で出発し、全日程を無事に終了して元気で帰ってくること。私の中ではそれが最大の課題だった。派遣指導者という責任の重圧に押しつぶされそうになった時期もあったが、素晴らしい10人のリーダーと出会い、“この子たちと一緒に未知の世界へ行ける”との期待も日々大きくなっていた。多くの方々からいただいたアドバイスが力強く背中を押してくれた。

初めてのドイツ、環境が変わる中での3週間、リーダーたちが健康を害することなく心身ともに元気で、見聞を広める研修ができるように、年長者として少しでも支えになればと考えていた。「誰かがホームシックになった時は…」との助言も、しっかりと脳裏に刻みつけておいた。

7月20日、フランクフルト国際空港に降り立ち研修の日々が始まった。ヘッセン州スポーツ連盟スポーツシューレでの全体プログラム。その後、地方プログラムのハンブルクへ移動。私たちを受け入れてくださったのは、ハンブルクサッカー連盟だった。

常に行動を共にしてくださったプログラム責任者の方は、3年前に派遣指導者として日本に、そして埼玉を訪れており、そのとき同行したリーダー、昨年派遣されたリーダーが数人いたこともあってか、だいぶ親近感があった。英語には自信がない、と言っていた日本のリーダーたちだったが、果敢に英会話に挑戦していて、日がたつにつれてごく自然に会話しているようだった。



ハンブルクの市庁舎を訪問



さよならパーティーでよさこいソーランを披露



ハンブルガーSVの高原選手から全員がサインをもらって大喜び。他の選手もみんな気軽にサインやカメラに応じてくれた。

ドイツのリーダーたちはホスト役を心得ており、日本のリーダーたちもそれに甘えすぎることもなく、いつでも仲良く行動していた。協力するとき、遊ぶとき、学ぶとき、国の違いなど少しも感じさせず、世界の若者という共通点で行動していた。

派遣団員としての立場をきちんとわきまえており、内には関東2グループとして、しっかり結束しながら、自分たちだけでかたまるということではなく、上手にバランスをとっていた。さすがリーダー教育を受けてきた若者たち。本人たちの資質はもちろんであるが、こんなに立派なリーダーを育ててきた家族や団の指導者の方々に敬服。そして、自分の団でもリーダーを育成したいとの思いを一層強くした。

ともあれ、初めてのドイツ。日本を遠く離れた国での日々であったが、不安や不便、不自由を感じることはなかった。迎えてくださった皆さんのあたたかい気持ちがダイレクトに伝わり心が安らいだ。通訳が日本の方だったのも幸運だった。また、全員がいつも明るく元気だったのは何よりの喜びであった。双方でそれぞれ我慢した部分もあったのだろうが、両国の若者たちの笑顔が国際交流の素晴らしさを物語っていた。

用意されたプログラムの一つひとつが感動であり、感激であり、驚きであり、そして感謝であった。文字どおり、異文化を溝喫してきた。憧れたり、共感したり、？があったり、それぞれがそれぞれの形で心の財産として蓄えてきた。これから的人生そして少年団活動に豊かな彩りとなるであろうと確信した。

全員が元気に成田へ帰ってきたとき、みんなの気持ちは「またドイツに行こうね！」で一つになっていた。ドイツ大好き、ドイツの人たち大好き、また会いたい。お世話になった皆さんに心から感謝！



さよならパーティーで空手の型を披露

第31回 日独スポーツ少年団同時交流 受け入れ報告く鴻巣市>

第31回を迎えた日独同時交流の受け入れ事業は、鴻巣市が担当した。

受け入れ期間は、7月22日から8月1日までの11日間。ドイツ派遣団の構成は、ヘッセン州から派遣された指導者1人、団員11人、計12人であった。

受け入れプログラムの概要

- 7月22日 鴻巣市到着、ウェルカムパーティー
- 23日 行田古墳見学、人形作り体験
- 24日 市民ラジオ体操会参加、鴻巣市花火大会見学
- 25日 受け入れ家庭プログラム
- 26日 武道(空手道)、茶道、書道の体験
- 27日 研修旅行(軽井沢) <少林寺達磨寺や白糸の滝などを見学>
- 28日 鬼押し出し園見学
パターゴルフ、アーチェリー体験
- 29日 地震体験、スポーツ交流(ソフトボール、ストラックアウト)
- 30日 うどん打ち体験
テーマディスカッション(スポーツ、学校、政治)
- 31日 鴻巣市制50周年記念事業として開催された全国獅子舞フェスティバル見学
さよならパーティー
- 8月1日 次の受け入れ地の水戸市へ出発

主なプログラムは、武道や茶道、書道、うどん打ちの体験活動をはじめ、鴻巣市制50周年記念事業の



吹上町の防災センターにて



次の受け入れ地 水戸市への出発前に鴻巣市役所前にて

一環として開催された全国獅子舞フェスティバル、鴻巣花火大会などの見学のほか、スポーツ交流、テーマディスカッションなどで、それぞれの交流活動をとおして心と心の触れ合う有意義な事業が展開された。

とくにホストファミリーの中には、日本スポーツ少年団主催のさよならパーティーへ出席したり、いつの日かドイツへ家族で行く約束したりする風景が見られるなど、大きな成果を得ることができた。

埼玉県スポーツ少年団 本部 指導者委員会

県本部委員会の一つ、指導者委員会は次の仕事をしています。

- *指導者研修(認定員講習会、現地研修会、研修大会等)の充実に関する事。
- *指導者の発掘、養成に関する事。
- *スポーツテストの普及・促進・指導者の育成。
- *指導者の親睦交流に関する事。
- *その他

これらに基づき活動をしています。具体的には、毎年1月末の土・日曜日に開催の現地研修会の企画・立案・準備があります。埼玉県内の指導者300人以上が参加するため、研修内容の検討・講師の人選等、準備に相当数の日数をかけています。

今年度は別項のとおり平成17年1月29・30日、鬼怒川にて開催します。スポーツ少年団各単位団の向上を目指し、多数の指導者の参加をお願いします。

今後の活動として、埼玉県内の認定育成員の再研修を埼玉県独自で開催し、指導者の資質の向上・県の活動状況などをお知らせし、また意見交換の場を設けることを検討中です。

まず参加 たのしくスポーツ みんなが主役

少年団からふあいぶるクラブへの展開

(財)埼玉県体育協会クラブ育成アドバイザー 林 恒宏

前号にて、ふあいぶるクラブ（総合型地域スポーツクラブ）についてご紹介しました。

では、具体的に現在の少年団の活動をベースに、地域スポーツクラブへの展開に向けてどのようなことを考えればいいのでしょうか？

現在、全国に地域スポーツクラブができてきていますが、その特徴を拾うと、①規則・会則に基づき運営するための組織を有する。②多世代型で活動する。③多種目で活動する。④会員から会費を徴収する（受益者負担、自主運営）。⑤定期的に指導する指導者が配置されている。⑥会員の募集が隨時行われている。⑦定期的に活動する場所がある。⑧クラブハウス（事務局機能）がある。⑨NPO法人（特定非営利活動法人）である。⑩公共施設の管理受託（施設の優先使用）⑪市町村（行政）の担当者と連携が図られている。⑫地域（自治会、小・中学校等）との連携が図られている。などがあります。

これらの特徴の内、少年団でも、例えば幼児や中学生が参加していたり、お父さんチームも活動していたら②の多世代は満たすでしょうし、複合少年団、活動の中心はサッカーだが、冬場はスキーや室内競技を取り入れる少年団においては③の多種目を満たすでしょう。①④⑥⑦などは既に多くの少年団では満たしていると思われます。

それ以外の特徴も、全部、また、すぐに満たそうとする必要性はありません。少年団の活動の中で、おそ

らく、地域の方々からのいろいろなニーズの声が聞こえるでしょう。「同じ種目だけでなく、いろいろな種目をやりたい、あるいはやらせたい。」「子どもと同じ団（クラブ）に通って、汗を流したい。」「部活に、これまで少年団でやってきた種目がない。中学生になっても、少年団で受け入れてほしい。」これらの声に十分耳を傾け、柔軟な発想で、それらのニーズに応えていく方法を考え、実行していくことも、少年団から地域スポーツクラブへ展開していくための一つの道ではないでしょうか。

ですので、「これまでの少年団像」に縛られることなく、「これから少年団像」はどうあるべきかを、指導者を中心に、母集団、地域の方々（自治会、体育協会、体育指導委員等）といっしょになって考え、行動に移していくことが必要になってくると思います。

これまでの少年団の指導者は、スポーツ種目の指導をしていれば良かった、ある意味「コーチ」のような役割に従事できました。しかしながら、これだけの地域社会の変化やスポーツ環境の変化にともない、指導者の役割が単なる「コーチ」から、その団（クラブ）の今後の経営をどうしていくかということを考え、手を打っていくいわゆる『経営者（マネジャー）』としての役割が大きくなってきていると見えます。次号では具体的に少年団（クラブ）の経営者（マネジャー）に求められる役割を紹介します。ふあいぶる（埼玉県広域スポーツセンター）TEL 048-779-5888

平成16年度日本スポーツ少年団表彰

平成16年度日本スポーツ少年団顕彰事業により、全国で58市町村スポーツ少年団と132人の登録指導者の表彰が決まりました。それを受け、埼玉県本部から推薦を受け表彰された3市町村スポーツ少年団、10人の登録指導者への伝達が行われました。

● 表彰市町村名（結成年）

桶川市（昭和53年）、杉戸町（昭和51年）、玉川村（昭和50年）

● 表彰指導者

峯下満義（幸手市バドミントン／幸手市リーダー会）

榎 勝美（中根ファイターズスポーツ少年団）

島田富守（鴻巣市スポーツ少年団誠志館鴻巣）

加藤和孝（白岡サザンクロススポーツ少年団）

大谷正己（松山南柔道スポーツ少年団）

田中幸夫（小川ジュニアテニスクラブスポーツ少年団）

北 利雄（久喜フレンズスポーツ少年団）

柴崎 清（片山ミニバスケットボールスポーツ少年団）

谷口征夫（神根東スポーツ少年団）

小高秀雄（川越パイラーツサッカー少年団）

平成16年度埼玉県スポーツ少年団指導者現地研修会

期日 平成17年1月29日(土)～30日(日)

会場 栃木県鬼怒川温泉『ホテルニュー岡部』

〒321-2522 栃木県塙谷郡藤原町大原1400

主な内容 研究協議「種目別大会の運営方法について」
講演（2日目）

(財)埼玉県体育協会クラブ育成アドバイザー 林 恒宏
仮題『スポーツ少年団と地域総合型スポーツクラブの関わりについて』

編 集 後 記

彩の国まごころ国体秋季大会に際し、地域の集会所で選手団の民泊のお世話をした機会を得た。選手たちが競技に集中できるよう、食事や入浴、競技会場への送迎、地域をあげて応援など、できるだけの気配りをした。結果は見事優勝！選手団と同じぐらい嬉しかったこと…。素晴らしい思い出ができた。

埼玉県スポーツ少年団事務局気付「育成広報委員会」
〒330-0063さいたま市浦和区高砂3-14-1 埼玉県自治会館内
TEL: 048-822-5171 FAX: 048-822-5174
E-mail: saitamaken@japan-sports.or.jp